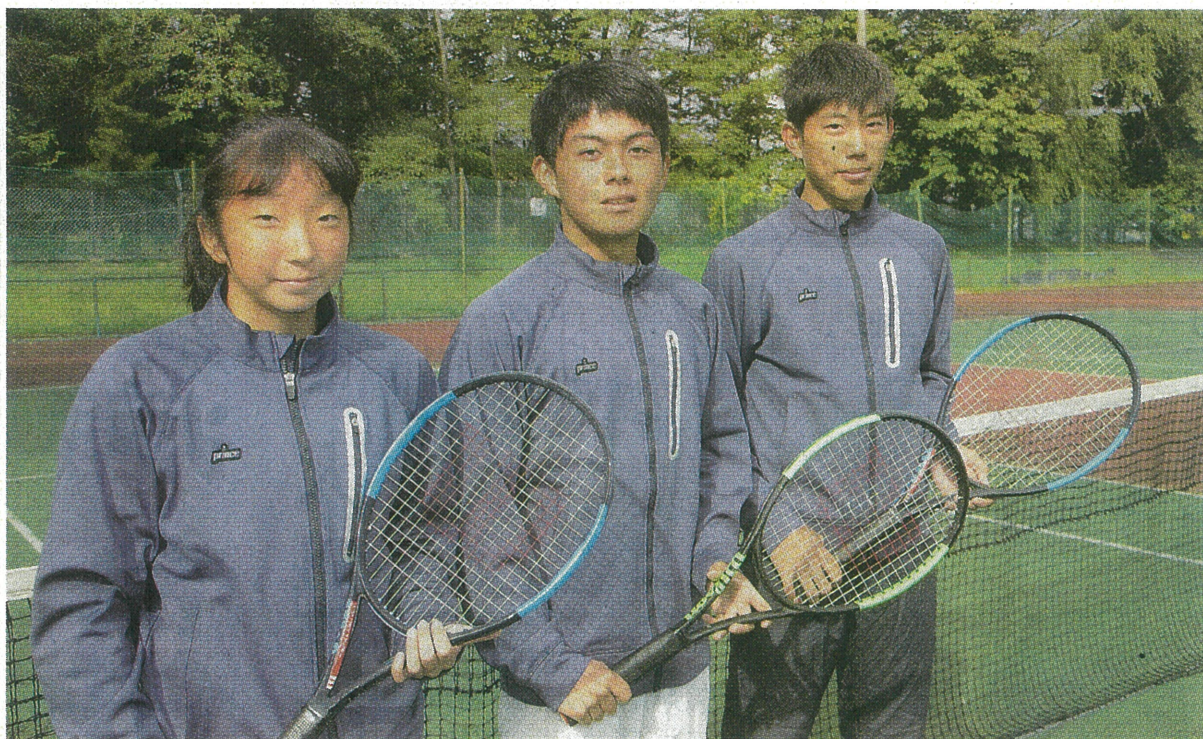


全道大会で活躍した(右から)小笠原、村上、志賀



海星学院高テニス部 小笠原、村上、志賀

海星学院高校テニス部(菊地竜平監督)の3選手が、第41回北海道高校秋季大会で上位入賞した。部としては全道大会で2大会続け上位に入り、今後に向けて弾みがつく結果となった。

大会は10月に旭川市で行われた。男子シングルスは小笠原陸(1年)が準優勝。決勝で藤川侑志郎(立命館慶祥2年)に3-6で敗れ、国体道選抜大会に続く準優勝。藤川とは国体のダブルスに同じペアで出場。道内トップの技術と、全国の社会人選手のフィジカルの強さを実感し「決勝は連戦の疲れでベストなパフォーマンスじゃなかった。体を大きくして戦いたい」。現在は60kgの体重を、この冬で70kg前後まで増強する目標を掲げる。

村上悠(2年)は小笠原と臨んだダブルスで3位。積極的に前に出る小笠原をサポートしつつ、積極的にクロスラリーを持ち込む

全道 上位入賞 大活躍

だ。このペアで2度目の全道ながらベスト4に食い込む活躍。「サービスゲームを思つようにキープできなかった。サーブから優位に立ちたい」と課題もはっきりした。

志賀瑚華(1年)は女子シングルスで3位。準決勝で中学までのチームメイト、宮川こみ(札幌光星1年)と対戦。1-6で敗れたがラリーに手応えを得た。「いつもならスライスで逃げたりしたけど、耐えてボールを返せたのは一歩前進」。スピン系のサーブを磨いてラリーの安定感向上を目指す。

小笠原は、U-15全国選抜ジュニア選手権のダブルスで松田空(東明中3年)とペアを組んでベスト16、第40回全日本ジュニア選抜室内テニス選手権で準優勝。好調を維持する海星テニス部が来季の飛躍を目指して鍛錬の冬を迎える。

(吉本大樹)